

当面のスローガン

- あいつぐ差別糾弾闘争を強化
- 全学校で人権・同和教育を!
- 全自治体で同和行政を!
- 西日本夏期講座の成功を!



解放新聞社山口支局

〒753-0074 山口市中央1-5-3  
 TEL 083-923-2303  
 FAX 083-921-1919  
 http://y-kaihou.jp  
 編集発行人 松岡 広昭

「差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう」中国5県の人権・同和教育のさらなる推進をめざし、「スローガンに、中国ブロッ

逆境だからこそその仲間

中国5県同教が結集

ク人権・同和教育研究大会が10月11日、岡山県倉敷市立玉島北中学校で開催され、同和教育に取り組む教職員や運動関係者など50名が参加した。主催は岡山県人権

教育研究協議会と、鳥取、広島、島根、山口の中国5県の人権・同和教育研究協議会である。中国5県の県同教が一同に会しての研究大会は、今年が初

めでの試みであり、試行錯誤の中で開催された。開会あいさつで、岡山県人権教育研究協議会の佐川会長は、岡山県の財政危機により県の人権教育予算が8割削減・見直しされている現状を報告し、「逆境の中でつなげる仲間だからこそ意味があり、力になる」と今大会の意味を訴えた。開会行事のあと、

二つの分科会に別れて、広島、山口、鳥取、島根の各県から実践報告がおこなわれた。

第1分科会では「A(障害のあるムラの子)のこと」と題して竹原市立竹原小学校の吉岡秀喜さん、「萩市結婚相談所差別事件から学ぶ」と題して山口県人権啓発センターの川口泰司さんの二人が実践報告をおこなった。第2分科会では、

「識字のLHRを通して、『自らの課題』を考える同和教育をめざして」と題し、鳥取東高等学校の福田和博さん、「今日休んだら、明日は学校に来られんようになるけえ」寄り添うこと、つながること」と題して、益田市立東陽中学校の寺戸和泉さんより実践報告がおこなわれた。質疑では、各県の実践報告に参加者ひとり一人が、自分の

実践と意思を返して討議を深めた。今回は中国5県で初めての研究大会であったが、各県の人権・同和教育の違いはあるものの、子どもたちや、部落を取りまく厳しい差別の現実には変わらなかつた。「逆境の中でつなげる仲間だからこそ意味があり力になる」という意義な研究大会となった。次年度も引き続き、開催される予定である。



夏期講座の成功に向けてあいさつする、友永所長

実行委員会は、部落解放・人権研究所と現地実行委員会と構成されている。現地実行委員会には、連合山口をはじめ、山口県平和運動フォーラム、山口県人権・同和教育問題にとりくむ宗教者連帯会議、山口県人権・同和教育

研究協議会、部落解放同盟山口県連で構成されている。主催者の部落解放・人権研究所をはじめ、地元の現地実行委員会の代表が参加した。主催者を代表して、友永健三・部落解放人権研究所所長よりあいさつがあり、

「来年は同和对策事業特別措置法が1969年に制定されて40周年、1979年に日本が国際人権規約を批准して30年を迎える節目の年に開催される重要な年である」「夏期講座の成功が今後の山口の部落解放運動の前進につながるように」と述べた。

第1回実行委員会では企業や行政、各種団体、市民などより広範な人たちに参加してもらえよう、講座の内容や今後の動きなどについて協議が行われた。最後に、全員で西日本夏期講座の成功に向けて、全力で取り組むことを確認した。

夏期講座の成功に全力を

現地実行委員が始動

来年7月9日、10日に山口市で開催される第34回部落解放・人権西日本夏期講座の第1回実行委員会が、9月24日、山口県労働者福祉文化中央会館におこなわれ、夏期講座の成功に向けて、本格的に動きはじめた。



地元を代表して、東国原英夫・宮崎県知事があいさつ

「世界人権宣言60周年を機に、平和・反差別・人権を確立する実践をさらにすすめるよう」をテーマに、部落解放研究第42回全国集会(全研)が、宮崎

宮崎で第42回全研

市総合体育館を全体会場に、10月3日から5日にかけて開催され、全国から5000人が参加した。初日の全体会では、「地方財政の現状と課題」をテーマに奈良女子大学名誉教授の澤井勝さんより記念講演が行われ、「共に差別をなくす取組みを」と題し、部落解放同盟宮崎県連の飯谷龍一が地元特別報告をおこなった(2面)。2日目は、9つの分科会に別れ、部落解放へ向けた実践と研究について議論を深めた。

第60回全国人権・同和教育研究大会(ご案内)

日時 11月29日(土)~30日(日)

場所 奈良市中央体育館 他

お問い合わせ 部落解放同盟山口県連合会 TEL083-929-2303